令和７(2025)年９月２４日
杉 並 区 総 務 部 広 報 課

【取材のご案内】

９月30日
収穫！

グリーンインフラの推進に向けて
園児たちがお米を作っています

「杉並たかいどいちご保育園」では、グリーンインフラ※を進めるため、園内に田んぼを作り、米の収穫までを行う取り組みを今年度から開始しました。この度、９月 30 日に、園児たちの手で稲刈りが行われる予定で、食について学ぶ機会にもなっています。

今回の米作りは、区が進める取り組み「グリーンインフラを活用した雨水流出抑制対策の強化」がきっかけとなりました。

区はグリーンインフラを活用した取り組みを推進するため、令和６年５月、専門家団体“「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会」地域共創拠点”（以下「地域共創拠点」という。）と連携協定を結びました。「地域共創拠点」のプロジェクトリーダーで熊本県立大の島谷幸宏特別教授を中心に、区民に向けた講義や土壌の浸透実験などを行うなど、様々な取り組みを進めています。

今回、杉並たかいどいちご保育園がグリーンインフラの取り組みを一歩進めることになったのは、同園の高野真智子園長が、区が主催する「気候区民会議シンポジウム」に参加したことが始まりです。高野園長は「園は『人生を楽しみ続けられる人を育てる場所』と考えており、特に『食』の楽しさを感じてほしい。それには、まずは大人たちが、自分たちが住む地域の自然や暮らしについて知る機会があるといい」と考え、その方法を模索していました。その折に参加した「気候区民会議シンポジウム」で、区の職員や「地域共創拠点」、市民団体「善福寺川を里川にカエル会」と対話をする機会があり、園の行う食育とグリーンインフラをともに進めていく活動は何かと考えた結果、今回の米作りが浮かび上がりました。

田んぼには水を貯留する力、保水能力があり、大雨のときなどに水をため、河川に流れ込む水を減らす効果が期待できます。水害対策につながり、グリーンインフラの取り組みの一つとしても注目されています。また、米作りを通して、食べ物が作られる過程を一から体験することで、食の大切さや食の循環について学ぶこともできるため、子どもたちの食育にもつながります。

米作りに関して知識が豊富な「善福寺川を里川にカエル会」「地域共創拠点」の協力を得て、土壌作りの段階から米の収穫まで進められています。
５月 12 日に植えられた稲は現在、順調に育っており、園では子どもたちと９月 30 日に収穫し、後日、給食に提供する予定です。

区では今回の活動などを生かし、専門家の支援を受けながら区民との協働で、さらにグリーンインフラの推進を実効性のあるものにしていきたいと考えています。

【中村篤史 都市整備部副参事（特命事項担当）のコメント】

グリーンインフラのことを理解し、自然を活用した取り組みを行いたいという申し出があったことは大変喜ばしいです。園児が楽しみながら田植えをしたことが水害などの課題解決になっていることがわかるように普及啓発につなげていきたいです。協定を締結した専門家と区民の活動とのマッチングができたことがモデルケースになり、今後のグリーンインフラ推進に期待が膨らみます。

【杉並たかいどいちご保育園の高野園長のコメント】

保育園は、大人も子どももこれからの長い人生を楽しみながら生きていけることを願っています。まずは「食」に関心を持ち、「食」の楽しさを感じてもらいたい。それには、調理するだけではなく、食材そのものや地域の自然を感じることも必要だと考えています。そして、まず、大人が知ること。感じること。こうした区や地域の方との取り組みから、大人自身もきっといろいろ見えてくることがあるでしょう。杉並区の地域を守る取り組みをみんなで実践していきたいです。

子どもたちに食の大切さを伝えながら、水害対策など自分たちが住む地域を守る活動も行うことができ、うれしく思っています。

※グリーンインフラ

自然環境が持つ多様な機能をインフラ整備に活用し、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進める取り組み。社会課題の解決を図る社会資本整備やまちづくり等に自然を取り入れ、課題解決の基盤として、その多様な機能を持続的に活用する。「グリーン」は、「ネイチャー（自然）」であり、樹木や花等の「みどり」のみならず、土壌、水、風、地形といったものも含まれる。

上：９月３日の稲の様子
左：５月 12 日の田植えの様子

取材のご案内

収穫は9月 30 日(火)16時を予定しています。収穫の取材を希望される場合は9月29日(月)正午までに電話かメールで広報課報道係にご連絡ください。

【報道機関 問い合わせ先】
都市整備部管理課 都市環境調整担当：03-3312-2111　内線 3525
広報課報道係　03-3312-2111　内線 1574